

国際バカロレア（IB）コースの5年目を終えて

校長 小河 多香路

令和5年度（2023年度）は、横浜国際高等学校にIBコースが開設されてから5年目にあたる年であった。令和5年4月にIB5期生が入学し、令和6年3月にはIB3期生が卒業した。またIB3期生は、1・2期生と異なり、本校ではじめてポストコロナの時期に最終試験を受けた卒業生であった。

上記のこととは別に、この1年間の中で、記録にとどめておきたいことの一つは、国際バカロレア機構による評価訪問である。コース開設から5年目を迎え、過去の取組の自己評価（Self-study questionnaire）を事前提出し、10月16日から10月18日までの3日間、評価訪問が行われた。そこでは、本校のIB教員だけでなく、本校IBコースに関わる学校コミュニティ全般から、神奈川県教育委員会、生徒、保護者の方々に参加をいただいた。その後、評価チームから評価報告書を受け取り、さまざまなフィードバックを受ける中で、校長として最も重く受け止めたのが、将来における「包括的な戦略計画」（Comprehensive Strategic Plan）の必要性であった。報告書によれば、その計画は、「プログラムの基準と実践」に基づき、責任とスケジュールを明確にした上で、多面的なデータの裏付けのもと、協働的な設計により実施されることが期待されている。

国際バカロレア機構の評価訪問を契機として、令和5年度（2023年度）のIBコース1年間の教育活動を振り返り、そこから、この先5年間のIBコースの展望につなげていければと考えている。